

令和5年度 三朝町立三朝中学校 自己評価表					No. 1		
みのりある 学び		年度当初		4:十分優れている 3:概ねよい 2:いくつか課題がある 1:課題が多く早急な改善を要す			
		○現状◎具体的な取り組みや活動	到達目標	経過・達成状況		自己 評価	関係者 評価
1	自らで学習方法を選択し、学習を進めたり深めたりすることができる生徒	○学習に対して、個人によって取り組み方に差がある。 ○教員による多様な学習方法の提示が十分になされていない。 ◎個人の考えを持ったり、深めたりする時間を確保する。 ◎それぞれの生徒が学習方法や習熟の方法を選べるよう、教師がその選択肢を準備・工夫する。	●学期末アンケート「学習する内容や目的に応じて、自分に合った学習方法を見つけることができましたか」「意欲的に授業に取り組むことができましたか」の肯定的回答が2回目以降は、1回目の回答を上回る。(毎学期末実施) ●全教科、全学年、標準学力調査の結果が全国比より同程度または上回る。(12月実施予定)				
2	色々な人との意見交換を通して、課題を解決したり、考えを深めたりすることができる生徒	○他者と意見交換はできるが、意見を集約したり、新たな考えをつくったりする対話活動には至っていない。 ◎対話活動のねらいをはっきりさせ、新しい気づきや考えを生み出す活動を設定する。 ◎意見交換する際の教材や席の組み合わせ、発問や声かけの仕方を工夫する。	●学期末アンケート「話し合い活動では、新たな気づきや考えを得ることができましたか」「他者の考えを自分の考えに活かしましたか」の肯定的回答が2回目以降は、1回目の回答を上回る。(毎学期末実施)				
3	家庭学習に主体的に取り組むことができる生徒	○家庭学習に対して、個人によって取り組み方に差がある。 ◎授業などで学んだことが、家庭での復習や予習および自主的な学習につながるよう工夫する。 ◎興味の湧く課題を設定する。 ◎参考とすべき生徒の課題ノートなどを提示し、家庭学習の意欲を高める。	●学期末アンケート「宿題以外の家庭学習に取り組むことができましたか」の肯定的回答が2回目以降は、1回目の回答を上回る。(毎学期末実施)				
学校関係者評価				改善に向けての来年度の取り組み			

令和5年度 三朝町立三朝中学校 自己評価表					No.2		
さわやかな仲間		年度当初		4:十分優れている 3:概ねよい 2:いくらか課題がある 1:課題が多く早急な改善を要す			
		○現状◎具体的な取り組みや活動	到達目標	経過・達成状況	自己評価	関係者評価	総合評価
1	自分の思いや考えを相手に伝えることができる生徒	○昨年度の長期欠席生徒の割合は近年減少傾向にある。 ○困っていることを抱え込む生徒がいる。 ◎生活アンケートなどを定期的実施し、生徒の心情把握を行う。また、その結果を元にした教育相談活動や中学校支援員、スクールカウンセラーとも早めに連携し対応する。 ◎不登校傾向の生徒に対し、学級担任などを中心に家庭訪問、電話連絡、支援会議などを実施し関わりを継続する。 ◎特別活動の充実を継続する。(朝の会:さわやかスピーチ、帰りの会:班の話し合い、学級活動など)	●教育相談アンケート 「学校が楽しい」「困ったことや不安なことは相談する」の肯定的回答が2回目以降は、1回目の回答を上回る。「1」の回答を減らす。(毎学期実施) ●i-check「発信力」に関する肯定的回答の割合が2回目以降は、1回目の回答を同程度で推移または上回る。(6月・11月実施予定)				
2	自分たちの生活をよりよくすることができる生徒	○意欲的に生徒会活動へ取り組んでいる。 ○昨年度i-check「学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだな、と感じることがありますか」への肯定的回答が73.5%である。(全国52%) ○生徒は、学校行事や生徒会活動を通して、学年を超えた人間関係づくりへ取り組んでいる。(運動会・文化祭での取組、全校朝会、委員会活動 等) ◎毎月の生徒会執行部の立てた目標が、委員会、学年、学級での目標立てや活動につながるよう教師が支援をする。	●i-check「学校の行事や活動の中で、あなたの心に残っていることがありますか」「学校の授業やクラスの役割などで、自分は先生から期待されているんだな、友だちからたよりにされているんだな、と感じることがありますか」に対する肯定的回答が85%を上回る。(11月実施予定)				
3	自分や仲間の人権をだいにすることができる生徒	○自分に自信がなく、周りの目を気にして自己表現できない生徒が多い。 ○自分は人の役に立っていると感じていない生徒の割合が多い。 ◎班活動や授業時間の関わり、行事などを通して、生徒がお互いのよいところへ気づく取り組みを継続する。 ◎教師が、全校集会や昼の校内放送などで皆に称賛される機会を設ける。 ◎みささタイム(総合的な学習の時間)の充実を図る。(いじめ撲滅宣言、人権弁論、人権劇など)	●i-check「思いやり」「自己肯定感」に関する肯定的回答の割合が2回目以降は、1回目の回答を同程度で推移または上回る。(6月・11月実施予定)				
学校関係者評価				改善に向けての来年度の取り組み			

令和5年度 三朝町立三朝中学校 自己評価表					No.3		
最適な環境	年度当初		4:十分優れている 3:概ねよい 2:いくらか課題がある 1:課題が多く早急な改善を要す				
	○現状◎具体的な取り組みや活動	到達目標	経過・達成状況	自己評価	関係者評価	総合評価	
1	よりよい生活環境を整え、環境に配慮した行動ができる生徒	○掃除には取り組むが、時間いっぱい集中してきれいにしようという意識が低い。形だけの取り組みで、自ら気づいて掃除する生徒は少ない。 ◎環境委員を中心に、校内の環境美化に取り組み、掃除点検及び、掃除のMVPを選出する。	●ゴミやホコリなどが落ちていない校内にする。 ●10分間掃除に取り組み、自ら掃除すべき場所を見つけられる生徒にする。 ●15:35の掃除開始時間が守れるようにする。 ●教室環境を整える。 (ロッカー、掲示物等、整理整頓ができるようにする。)				
2	望ましい栄養や食事のとり方を理解し、健康な生活を自ら管理できる生徒	○本年度5月実施、食に関するアンケート「朝食を毎日食べますか」への肯定的回答が83.3%、「主食・主菜・副菜のそろったバランスのよい朝食がとれているか」への肯定的回答が36.8%である。 ○給食放送での地元生産者の紹介や、保・こ・小で統一した献立や体験教育、町の国際交流事業と関連した食育活動を行う。 ◎朝食を食べていない生徒に対して、朝食の必要性や望ましい内容について栄養教諭と養護教諭が連携をして個別指導を行う。 ◎料理レシピ集をPTA育成部で作成、配布し、家庭での食育や調理を啓発する。	●食に関するアンケート「朝食を毎日食べる生徒」「バランスのよい朝食がとれている生徒」の割合を1回目より増加させる。(12月実施予定) ●家庭での食育や調理を啓発する取組をPTA育成部と協力し実施する。 ●地元農家や保・こ・小、役場各課など地域と連携した食育活動を増やす。				
3	生活リズムを基本とし、心身ともに健康な生活をおくることができる生徒	○昨年度、三朝中学校のメディアルールを守れた生徒は72%である。 ◎インターネット講演会を開催し、メディアとのよりよい付き合い方について学習する機会をつくる。 ◎メディアルールDAYの定着を図るため、毎月保健委員会がメディアとの付き合い方や規則正しい生活習慣について啓発していく。 ◎規則正しい生活習慣の定着が難しい生徒に対し個別指導を行う。	●メディアルールアンケート「寝る30分前にはメディアから離れる」が守れる生徒を80%以上にする。(月1回実施予定)				
学校関係者評価			改善に向けての来年度の取り組み				